

公表

事業所における自己評価総括表

事業所名	このひかり金武宜野座校（単位）		
保護者評価実施期間	2025年3月1日～2025年4月20日		
保護者評価有効回答数 (対象者数)	19	(回答者数)	19
従業者評価実施期間	2025年3月1日～2025年3月31日		
従業者評価有効回答数 (対象者数)	6	(回答者数)	6
事業者向け自己評価表作成日	2025年5月20日		

分析結果

	事業所の強み（）だと思われること より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々な職種が在籍しており、それぞれの観点で児童を観察し、支援を行う。看護師、保育士、児童指導員、教諭等が所属し、児童だけでなく保護者支援においても的確な助言やサポートを行える。	日々のミーティング等で情報共有を行い、支援方法などについて、職員間ですり合わせを行なって、支援のズレを起こさないようにしている。	福祉サービス経験者が少ないので、事業所内・外の研修を活用し、職員それが専門性を高めて、支援の質の向上を図りたい。
2	児童発達支援と併設することで切れ目のない療育が行えること。また、就学時期の環境の変化等で不安定になりがちな児童も安心して、通所ができること。	児童の移行時期等について、事業所間で相談しながら行なっている。事業所間の交流、保護者交流なども積極的にを行い、開かれた事業所作りを意識している。	デイサービス終了後の就職先や進学先との連携などを強化し、進学・就労にむけた療育内容を検討し、利用者の移行支援体制を強化する。
3	日頃から活用できる社会資源が多く、施設内外で幅広い療育活動が行える。	地域交流の機会を設け、事業所外で体験・経験することで児童の成長した部分（力）を確認する。	学童や保育園等との交流の機会を作り、地域交流だけでなく、地域支援・地域連携の強化を図る。

	事業所の弱み（）だと思われること 事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	福祉サービスを併用する利用者が多く、一人当たりの当事事業所の利用日数が少なく、支援の頻度などが足りない。モニタリングを行なっても利用回数が少ないので、児童の変容がわかりづらい。	事業所によりサービス提供内容が異なるので、複数事業所に通うことは否定できない。保護者が求めているサービスを提供できていない。（専門職による言語訓練など）	療育の必要性や事業所でしかできない丁寧な支援の重要性を利用者に感じてもらえるように努める。 専門職の人材確保など。
2	地域のニーズ（利用者数）に対して事業所の数が足りていないので、申し込みが殺到するが、定員の都合上、受け入れられない。	事業所の数が足りない。（外的要因） 当日欠席者があるので、結果的に定員を下回ることがあるため、実際は案内できるケースも多い。しかし、当日連絡などで事前に案内することが難しい。	保護者の協力のもと、欠席連絡をできるだけ早く把握し、追加利用の児童を案内できるように努める。必要な方がサービスを受けられるように改善する。 適宜、契約日数などを変更して、新規児童や既存児童の利用を増やす。
3	送迎において、地理上の難しさが多い。一車線で混雑などが多く、サービス提供時間や職員の勤務時間に影響がある。	物理的な問題（外的要因）	保護者と協力して、送迎業務の負担軽減と療育時間の確保に努める。送迎児童の配車計画などを工夫して、効率よく、送迎業務を行えるようにする。